

G-81

1404

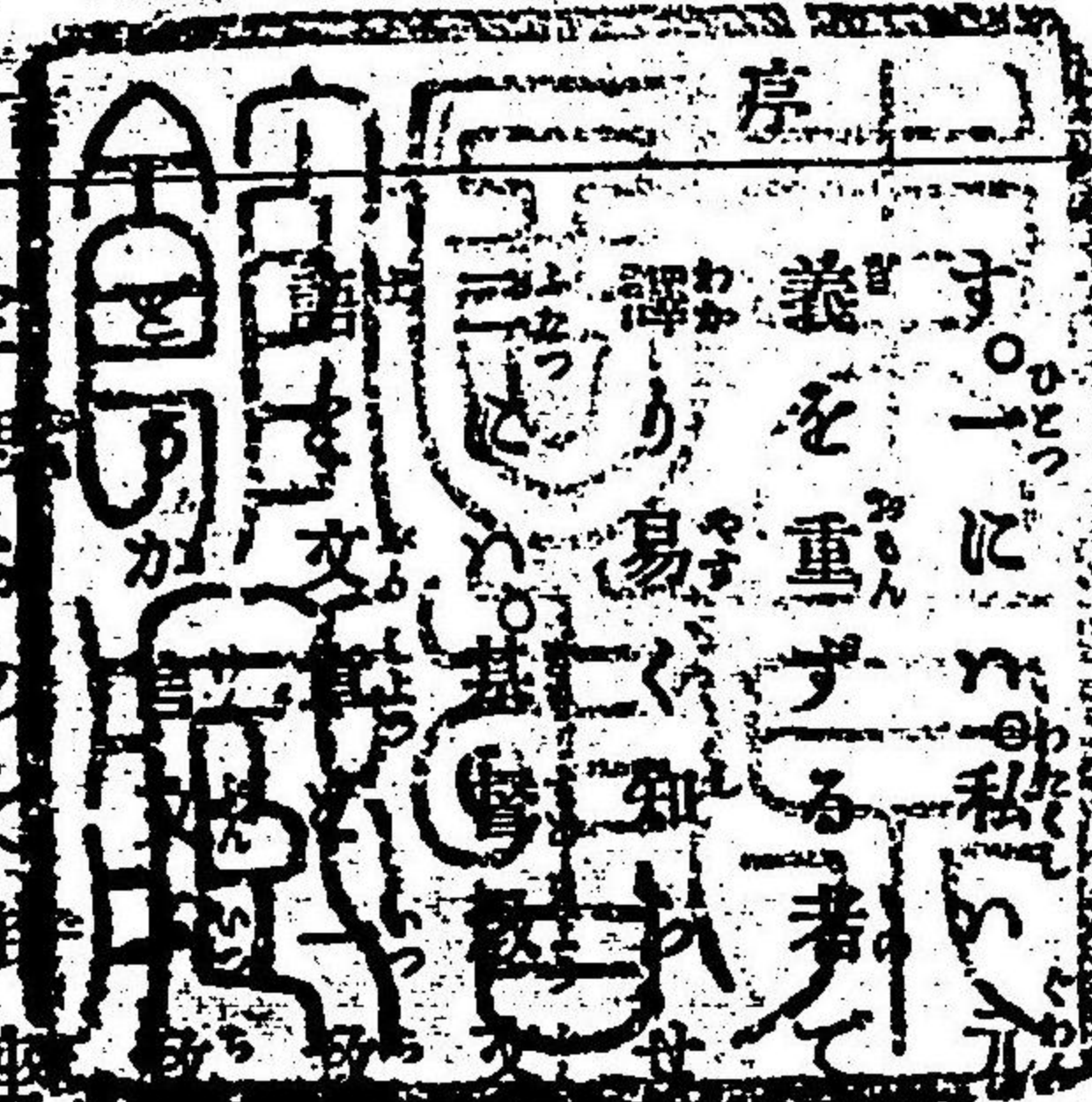
436
7
487

Why do I Believe

由理名可信在神真

There is a God?

№ 20186/22



序言

私わたくしが此こゝろ小冊子せうさくしを書きましたのには、二つの理由りゆうが御座ござります。

第一だいいちに、この私わたくしの來位らいゐも平民へいみんの心こゝろも平民へいみんの説教せききょうするにも平民へいみん主義しゆぎを重おもんずる者ものとして、

どうか基督教きりすときょうの眞理まことを普通ふつう一般いぱんの人々ひとびとにたいし、頼たのりに望のぞんで居ゐることであり、

學まなぶ段たん々たん世よに熾さかんになつて來きましたが、言ことひして書かかれた書物しよぶつの少すくふ御座ござりますから、

の書物しよぶつを基督教きりすときょう文學ぶんがく社會かいわいに熾さかんにしたいと思おもふので、御座ござります。夫それ故ゆゑ私わたくしの此こゝろ小冊子せうさくしを首はことして、追々おそく

三さんヶ月かげつ或あるは四しヶ月かげつ毎ごとに一回いっぺん是こゝろに似に寄よつた小冊子せうさくしを發行はつしやうしたいと思おもつて居ゐります。若しし此こゝろ小冊子せうさくしにて、私わたくしの望のぞみまする

様ように、普通ふつう一般いぱんの人々ひとびとに基督教きりすときょうの眞理まことを知らする事ことが出來こる。



ましたならば私の満足此上も御座りませぬ。どうか神此小冊子と俱に在まし給ひて。讀む人々に祝福を與へられん事を願ひます。

千八百八十九年

明治廿二年九月

有樂堂主人しるす

真神を信ずる理由目次

第一章	緒言
第二章	神と云ふ思想の何處から起こつたのでしよ
第三章	宇宙の結果なら充分其原因があります
第四章	規則正しく釣合よく意匠のある者の屹度智
第五章	慧ある御方の御造りなされた者です
第六章	良心の惡を憎み善を嘉みます
結末	

連と同様に。理屈もなく。又理由もなしに。信仰く。爾の頭も
信仰と云ふやうに。信ずる者と見做され。私輩の眞神を信ず
るの。基の。かい家。か。根のなき樹の様に。道理の風が吹けば。す
ぐ倒れ。學問の大陽が照れば。すぐ枯れ失せるもの。と考へら
る。人々も。物議りと自から誇り。學者ぶりて居らる。御方
の内。に。澤山あるやうに思はれます。少し失敬な云ひ分て
すが。此等の。人々。の。ちやうど。井の中の蛙の様なもの。で。日本
ばかり眺めて。みて。廣い世界に。何様いふ人が。基督教を信
ずる。か。知らないので。す。米國の大頭。ハリスン。將軍や。英國
の大政治家。グラッドストーン。日耳曼國の大宰相。ビスマー
ク。の。神を敬ひ。國を愛すること。に於て。人に。敗を取らぬ
熱心の。人々。で。す。ま。が。さ。か。神を信ずるに。無茶苦茶に。理屈も

調べず。心の底より。合點もせず。に。無暗に。信ずる。理由あり
ます。まい。米國の。マコーシ。英國の。マール。曼國の。ロッ
川など。いふ。人々。は。世界で。屈指の。哲學者。で。又。神を信ずる。熱
心家。です。が。其。人々。の。著述。され。ました。る。書物。の中。には。心理
學。人倫學。又。論理學。などの。理屈。ばつた。書物。が。澤山。あり。ま。し
て。諸。大。學。校。の。教科。書。に。用。ら。れ。て。あ。ま。す。斯。う。い。ふ。理。屈。張
つた。書。物。を。著。述。し。たり。又。理。屈。ば。つ。た。諸。大。學。校。の。生。徒。を。教
ゆる。諸。先。生。が。一。方。には。理。屈。た。ら。く。と。陳。述。が。ら。一。方。に
は。理。屈。も。云。は。ず。無。茶。苦。茶。に。眞。神。を。信。ず。る。と。云。ふ。は。釣。り。合
は。ない。事。で。は。あ。り。ま。せ。ん。か。基。督。信。者。が。眞。神。を。信。ず。る。は。千
代。經。た。巖。の。上。に。建。て。た。る。家。で。す。萬。年。も。歳。ど。つ。て。根。の。蔓。延
つた。樹。で。す。學。問。の。大。風。が。吹。て。も。容。易。に。は。倒。れ。ま。せ。ん。哲。學

の大雨に遭ッても。中々流さるゝ氣遣ひはありませぬ。私輩の眞神と云ひますのは。ヒプライ語で「エロヒム」といひ。英語で「ゴッド」と云ふのと同じ意で。無限權力と智識と慈愛を備へて。自から永遠より永遠に在ます御方を申すのであります。即ち萬有の造物主。保護者。一國の王様。人間の天の父。又は審判官です。宇宙に斯ういふ御方が在すなれば。其を信ずるは道理でありませぬ。又人間のする義務ではありますまいか。若し斯う云ふ方が在さないのなれば。信ずるには無用です。又道理にも合ひませぬ。無茶苦茶です。信ずるには及びませぬ。併實際かういふ御方が在すのですから。私輩は信ずるのです。これから段々と其理由を述べましよう。

第二章

神と云ふ思想は何處から起ツたのでしよ

うか

母さんと云ふ名があるから。母さんと云ふ者が。できたのは。ありませぬ。帝國大學と云ふ名があるから。帝國大學と云ふものが。できたのでは。ありません。子に乳を呑ましたり。衣服を着せたり。叱つたり。教たりする。肉を分け血を分けた者があるから。母さんと云ふ名が出来たので。醫者になる人。には。脈の取り方より。藥の匙加減を教へ。器械學者になる人には。アイスクリームの器械の組立から。鐵道の仕組に至るまで。其妙法を傳授し。法律家にならうとする者には。日本の憲法は更。あり。醬油屋の組合規則まで。規則の名のあるものは。残らす。教ゆる。學校があるから。帝國大學と云ふ名があるのです。名が先で。實物が後にあるのでは。ありません。實物が

先で名は後です。然れば神と云ふ名があるから神と云ふ者が出来たのではありません。神と云ふものがありますから。世に神と云ふ名があるので。神と云ふ實物が先で神と云ふ名は後です。名があれば其實物があければなりません。イマ國の名高ひブルカークと云人が世界を周歴と。城壁もあければ文字もなく。君主もなければ錢もなき都府が随分ありますけれども。神を信ぜぬ無宗旨の民は世界中にない。といふことを云ひました。が。ほんとして。事實です。氷の島に住み。年々歳々毛の衣服を着て居る。グリーンランド島の人で。年々歳々ひなたで暮す。アフリカ洲の人でも。氣候によりて變化は御座りません。皆神と云ふ思想を以て居ます。人の肉がなければ。御馳走を食べた様な心地がしないといふ野

蠻な人民でも。フランスの料理でなければ。食べないといふ開化風の人民でも。野蠻と開化の差別は御座りません。皆神と云ふ思想を持って居ます。米國のやうな共和政治の國に住む。自由な人民でも。ロシアのやうな獨裁專制の國に住む。窮屈な人民でも。どんな政体でも。政体によりて差別は御座りません。人情の一つで皆な神を愛します。御手乗の人力や馬車に召す男爵。子爵。伯爵の殿様でも。ハイと叫ぶ馬丁でも。御免くと高聲揚げる人力車夫でも。神と云ふ思想には。上下の區別の御座りません。文部省の證文附の大博士と。尊敬せらるゝ學士様でも。假名附の新聞もろくに讀み兼ねる湯屋の三助殿でも。學無學の差別にて。神と云ふ思想の専賣特許を得る譯にはいけません。神と云ふ思想の人の固有

物の様で。だれでもかても皆此思想を持つて居ます。何様して
人が此様に神と云ふ思想を得たので、しやうか。世に種々
に説を付けて、其起りを解き明さんとする人が御坐ります
が。其説を三つ四つ御話し致しませよう。エヒキリヤンとい
ふ學派の人の恐怖が神と云ふ思想を作り出した元である。
夜怖わい夢を見たり。大風に出遭たり。地震に遭ふたり。雷の
墮ちるのを見たりして。大層畏れる事があります。其畏れ
が神と云ふ思想を起したのだと云ひます。又ヒュムといふ
先生。無智無學と恐怖が神と云ふ思想を生み出した元だ
と申します。詳しく申さば。何處からかキヲツ、キヲレンな火の
玉が飛んで来て。其起りのさつぱりわからない處から。其れ
を畏れ初め。其内に一ツ二ツ三ツ四ツと多くの理由の譯

らないものを畏れ敬ひ。これを神として拜む様になりまし
た。之が八百萬神を拜み初めた元で。其澤山の神の中で利益
があるとして。もてはやされ。我も我もと願をかけ。御供物を入
る。百屋の店か。干物屋の店の様に澤山に列べたて。人氣を得た
其神が。遂に横領跋踏して。家康公が徳川家を作り出した様
に。天子様を棚に上げ。一つの徳川を拜む様に成つた譯で。つ
まり無智無學と畏れが神と云ふ思想を胎み。其思ひが俗に
云ふ多神教を産み出し。夫れから今日の様に成長進化して。
一つの神を拜む様になつたと申すのです。
スペインサ一先生は。又ザツとほぬけて。神と云ふ思想の起源
は。死んだ先祖の靈魂を拜み始めたのが。其の元だと云ひま
す。又或先生は。神様が御自分で御願れなされて。人に神と云

ふものは。こんなものだ。と御示しなされたのが。其思想の始
めだ。と云ひます。御説は澤山御坐ります。が。これもこれも。感
服賛成は致し兼ねます。エビキリヤン學派の人々。又ロユ
先生は。恐怖と無智無學が神と云ふ思想の起りだ。とあつし
やります。が。夜怖い怪物の夢を見たから。とて。顔の十一も。手
の千本もある。十一面觀音とか。千手觀世音など。いふわけ
の。わからぬものに。遇ふた。とて。なぜ夫れを畏れたり。敬ッ
たり。拜んだりする。のでしようか。人が自分より。えらい者は
外に。ない。と云ふ事を。能く。合點して。居たならば。どんな
理由の。解らない。者に出遭つた。とて。其を。自分より。えらいも
の。こわいもの。と。敬まつたり。拜んだりする。はずは。到底。御座
り。ます。まい。もしも。あなたの子供が。私は。父ッさんより。か。強

い。角力。と。ッても。ま。け。は。せ。ぬ。智。慧。く。ら。べ。を。し。て。も。私。の。方。が
利。口。だ。ナ。ニ。親。が。私。を。産。ん。だ。の。て。は。な。い。私。が。親。を。生。ん。だ。の
だ。と。云。ひ。ま。す。な。ら。此。の。様。な。高。慢。な。子。供。が。ど。う。し。て。く。あ
なたを。畏。れ。たり。敬。つ。たり。拜。ん。だ。り。し。ま。し。よ。う。か。自。分。よ。り
他。に。敬。つ。たり。拜。ん。だ。り。す。る。筈。は。御。坐。り。ま。せ。ん。人。間。よ。り。え
ら。ひ。者。は。な。い。上。な。御。方。は。な。い。敬。ふ。者。は。な。い。拜。む。者。は。な。い
と。思。つ。て。居。る。者。が。ど。う。し。て。く。怖。ひ。夢。を。見。た。と。て。夫。れ。を
恐。れ。たり。拜。ん。だ。り。す。る。筈。は。御。座。り。ま。せ。ん。夫。を。畏。れ。たり。敬
つ。たり。拜。ん。だ。り。す。る。の。は。正。し。く。私。輩。の。上。に。畏。る。べ。き。もの
が。あ。る。か。ら。で。す。敬。ふ。もの。が。あ。る。か。ら。で。す。此。様。い。ふ。工。合。に
理。屈。を。煎。じ。詰。め。て。見。ま。す。と。神。ど。い。ふ。思。想。の。起。つ。て。來。た。の
は。恐。怖。で。も。御。坐。り。ま。せ。ん。無。智。無。學。で。も。御。坐。り。ま。せ。ん。恐。怖

しひ夢を見あはずと先に。又理由のわからぬものに
はないまへより。神といふ思想は人が持て居たのです。スベ
ンサー先生は神と云ふ思想は先祖の靈魂を拜んだのが其
初めじだ。と云はれますが。歴史を調べますに。そんな證據は
ないやうです。たとへ若しスベンサー先生云はるゝこと
を眞實と見ても。なぜ人が先祖の靈魂を禮拜するやうにあ
つたのでしようか。つまり人の心に親の生きて居た間に。其
親を敬ひ貴んだ事があるから。死んだ後にも。其靈魂を禮拜
する様になつたのでしよう。スベンサー先生の説もヒュム
先生の説も。哲學者の御説とは思はれませぬ。又或學者の御
説の様に。神様が自分で御顯はれなされて。神と云ふものは
斯ういふものだ。と御示しなされたといふのも。どうも受入

られませぬ。造物主は人に種々の固有の性をお與へさされ
たのに。唯神を慕ふの念は御與へなさらなかつた。と云ふの
は。どうも合點がゆきませぬ。扱其神といふ思想の起原を委
しく究ねまするに。何様しても。人間が生來持て來たものゝ
やうです。人は生れながら。自然に神を信じ慕ふの情が御座
ります。嬰兒がオギヤアと生れます。とすぐ手を出して慈母
さんの乳をさぐり呑まんとします。が。誰も嬰兒に乳を呑む
事を教へた人のありませぬ。生れぬ先に教ゆる事もできま
せん。ですから。嬰兒の乳を慕ふのは。生來の性です。其通りに。
人が神を慕ふのも。誰も教へたのでありませぬ。天然自然
の性質です。ダビデ王は「あゝ神よ鹿の溪を慕ひあへぐが如
く。我靈魂汝を慕ひあへぐなり」と詩に唱ひました。が。其通り

てす。能く人の性を顯しました詩です。どんなに人が口で。神
のない神のないと云つても。心で。何ぞう思つて居るかわか
らないものです。まゝ口と思ひと合ぬ事が澤山あります。あ
のフランスのホルテアと云ふ人の神を信じないと云つた
親玉でした。が。或日アルプスの頂上に登りましたとき。生
憎大變な大嵐に遭ひ。雷がガラ／＼なるに。吃驚仰天して。地
に倒れ。神様に一生懸命に祈つた事があつたと聞きます。ふ
だん口で。神がない神がない。と威張てをりました。こわ
い時に。忽ちに生來の性が顯れます。時に「愚なる者の心の
中に神なしといへり」とありまして。心の中に思ふと御座り
ませんの。口と心のうらはらを顯したもので。口でいくら
云つても。必ず心でそう思つて居ると云ふ譯で。ありませ

ん。人の皆口でどう云はふとも。神を慕ふ念の生來持て來た
ものです。斯ういふと。人は直ぐ理屈らしく。人が生來神を慕
ふ念があるならば。神様の在る證據を永たらしく述べ立つ
るに。及ぶまい。又生來神を慕ふ念があるなら。みんな同じ
神を拜む筈だらう。となじる御方が御座りませう。併人の
生來の性と云ふもの。山から掘出した鐵の様なもので。鐵
に。違ひの御座りませんが。鍛冶屋の火で鍛へば。鍛ふ程良
くなり。ます。其様に神様を慕ふ生來の性も。生れながら。神を
慕ふ事は。できますが。神様の在ます證據を調ぶれば。調ぶる
程。確かに在る事が知れます。又人が此世界で。種々雑多の神
を拜み。すまのは。其處ろ／＼の風。に誘はれ。教になびいて。知
らず／＼。其親／＼の習慣や。其の國風に染みて。木や石まで

も。神や佛と拜む様になつたのです。神と云ふ思想の起つて
來たのは。生來神を知り。神を慕ひ信ずる様に作られ。其神を
慕ふ念を持つて來たからです。されば人が眞神様を慕ひて
信ずるのは。道理に能く適つて居るのです。
第三章 宇宙が結果なら充分な其原因があります
「あーいー」お梅。半鐘の音がする。何處かに火事があるぜ。急
いで見て御覽ん。下女は目をこすりー。寐ぼけ顔で。二階の
窓を開けて眺めあがら。へー旦那。中々大きな火事です。餘
り遠くはありません。見當は日本橋邊でしよう。アノ火の子
が散てきます。アノ人聲が能く聞へます。火の起りは何てし
ようか。粗々火でしようか。付け火でしようか。此頃は商賣が
不景氣で。大變付け火がはやるぞ。やまと新聞に出ていました

が多分此火事も。付け火が原因でしよう。と無學な下女でも。
起つた事には必ず其充分な原因があると云ふ。原因結果の
理は知つて居ます。父ッさん。ちよッどあの人を御覽。た
どんよりも黒い。眞黒けな顔で。眼をキョロ／＼して。口を尖
らして居る。父ッさん。あれがアフリカの黒奴か。父ッさん。
なぜあんなに黒いの。毎日靴刷毛に墨を付けて。顔を磨くの
か。エ。と子守り付きの。幼稚園通ひの。ホッチャン。すら。顔が黒
ければ。其黒い原因がなければならぬといふ。道理を能く知
つてゐます。何でも出來た物。何でも起つた出來事には。其根
のある事。充分な原因のあるといふ事は。物議りの學士も。い
ろはも。讀ぬ權助。どんも。猫も。杓子も。皆同意です。改進黨や。大
同團結派の様。に。互に意見の違ふ様な事は。萬々御座りませ

ん。宇宙は原因でしようか。自から無究にあるものでしようか。宇宙は結果でしようか。始めがあつたものでしようか。始めがあつたものならば、其起りがなければなりません。結果ならば、其充分な原因がなければなりません。今日の様に、學問の熾にならぬ前までは、月でも星でも山でも木でも、何でもかでも、委しく其原因を話し申す事が出来ませんでした。したが、今日となつては、地質學の御蔭で、地球の組織から、砂一掴みに至るまで、どう云ふ工合に、どう云ふ順序に、いつ造られたと云ふ時までも、審さに御話し申上る事が出来ます。歴史を調べて、封建政府の起原を御話し申上るよりも、地下にある石炭の起原を御話し申方が、確かな證據物が御坐ります。富士の山と申せば、日本て山の王様です。如何にも高

く頭を持ち上げ、如何にも御威光があるやうで、太古からあの様に聳へて居た様に思はれますが、地質學先生に、年の鑑定を願ひますと、頭は大變はげて居ますけれど、思ふたよりは大變若いのです。日本から亞米利加に行くには、太平洋と云ふ、五千英里もある大きな海が横はつて居ます。又アメリカからイギリスに行くには、三千英里もある、大西洋といふ大きな海があります。其外に地中海とか、南海とか、北海とか云つて、地面鏡べをするならば、亞細亞、亞非利加、亞米利加、歐羅巴、澳太利亞の國々よりも、大きな地面を取てゐる。大きな洋が御座りませんが、太古に溯つて見ますと、海も陸も山も河も何にもなくて、今日の様をなして居らなかつた時代が御座りました。又夜になつて、蒼空を眺めますと、濱の眞

砂よりも澤山の星が「ダイヤモンド」の様に奇麗にキラ／＼輝いて居ります。其様は神様の國も斯くやあらんと思はれる程ですが。星も月も太陽も地球もみんな同じ親から出た兒で。元は一處に集つて居たもんですが。歳月の経るにつれて。一ツ所から分れて地球となつたり。太陽となつたり。月となつたり。星となつたのであります。此の宇宙の始まつた事は。諸學先生の中にも御異論は御座りません。日々月々歳々學問の進むに連れて。此宇宙の始めの在つた事。又此宇宙の結果である事は。尙々證據が澤山に出で來まして。學問があり。理屈を知つた人ならば。此事は疑ひません。斯ういふ工合に。宇宙内にある地球でも。太陽でも。月でも。星でも。人間でも。獸でも。魚でも。鳥でも。木でも。石でも。何でもかでも。皆出來た

物。又始めがあつた物なれば。必ず其充分な原因がなければなりません。まゝい。そんなら其充分な原因とは何てしようか。水てしようか。火てしようか。山てしようか。人間てしようか。太平洋の大水でも。中々以て茶碗の底の一滴の水ですら。新に造り出す事は出來ません。地の底の大窟の火でも。線香の先の火ですら。新たに産出す事は何様して出來るもんで。はありませぬ。世界に名高きヒマラヤ山でも。愛宕山の様な小さな山ですら。新たに造る事は到底出來ません。どうして。人間が蒸氣を發明したワットの千倍の智慧を蓄つても。鐵瓶の湯氣ですら。新たに製造する事は出來ません。電信を發明したモールスの万倍の智慧を出したとて。田舎宿屋の行燈の暗い光でも。新たに造り出す事は力に及びません。され

ば水でも火でも山でも人間でも此宇宙を造つた原因では
ありません。されば屹度水よりも火よりも山よりも人間よ
りももつと権力のある。智慧のある御方が外に在て。此宇宙
を造りなされたのでなければなりません。さうでなければ
ば。此宇宙の在る筈は到底御座りませぬ。私共は其造物主を
眞の神と云ふのです。名は何でもよう御座ります。天然の理
と云つてもよろしい。自然の道と云つてもよろしい。道理と
云つてもよろしい。第一原因と云つてもよろしい。若し實物
が同じ物ならば。名には構ひませぬ。廣ひ世間には。瘦せ我慢
の強いお人があります。理につまると。うんど云つて降参
するのがいやです。からいろくの逃道をつけて。理屈らし
く。ジョン、シチュ、ワルト、ミル、が子供の時。父さん。が。此世界

は神様が御造りなされた。と云ひましたら。ミルはそならん
神様は誰れが造つたのだと云つたのを。又聞して。第二のミ
ルを氣取つて。高尙らしく。此宇宙は造られた物であつて。造
物主がなければならぬと云ふ事は一通り分りましたが。切
此造物主即ち眞の神と云ふのは。誰れが造つたのです。其原
因は何です。又其上の原因は何です。原因の上に原因。又原
因。と其原因をなくしては結果とし。又其原因をなくなし
ては結果とし。此世の出来事は坊主の持て居る數珠の様に。
結果々々。又結果とぐるく廻つて止りなく。つまり此世に
は結果計りて。原因と云ふ物はないとします。斯ういふ理屈
は。何だか理屈ありげに見へますが。能くく考へて見ます
ると。原因結果の理に逆つて居ります。一向論理に適ひませ

ぬ。前にも申します通り。始まった物には原因があると云ふので。始がないものに原因があると云ふのでは御坐りませぬ。そんな無法な事を云ふのは。馬鹿な事です。眞神様が造られたもの。又始めがあつたものと。僅かに理屈の上で定まつた以上は。其原因を聞くは御最ですが。眞神は無限無究に在ますと云ふのに。其神は誰が造つたと聞くのは。論理學の上から云つても。縦から見ても。横から見ても。心の氣違ひに間違ひありません。又物の理屈を調ぶる御方は。第一の原因に溯つて。其處で止まらなければ。決して此宇宙の道理を充分に。満足させる事は出来ません。あなたの子供に聞て御覽なさい。是はおまへ誰の兒か。私は父さんの兒です。さうですか。そんなら父さんは誰の兒か。其父さんの兒です。其父さん

は誰の兒ですか。其父さんの兒と。千年も。万年も。億万年も。はたしなく。親の子。其親の子。又其親の子と云つて。廻り廻る様に。ぐる／＼廻はつて居ますなら。止まる處は御坐りませぬ。斯ういふ理屈には。學者でも。無學な者でも。逆も承知は出来ませぬ。人間は先祖は猿だ。主張せられた。ダービンの進化の説も。無茶苦茶に。人から猿。猿から猫。猫から鼠と押し上げて。つかまへ處のない理屈は云ひはりませぬ。ダービン先生でも。進化々々云つて何でもかでも。進化の理で何んぼ煎じつめたとして。つまり止まる所には止りがあります。私共が眞神と云ふのは。其止まり所であつて。即ち造物主です。自から在ましたもので。造られた者ではありません。第一原因であつて。他のものはみんな是から出来たのです。宇宙

の造られた原因は即ち此眞の神様です。
第四章 規則たいしく、釣合よく、意匠のある物は、屹
二三年前、日耳曼のドレスデンと云ふ都府の博物館に参つ
た事が御坐りましたが、名高い人の書きました油畫が、澤山
に陳列してありました中に、格別に私の目に注ぎました油
畫は、キリストの母マリアが、キリストを手に抱て、雲の中に
顯はれて居ますと、下の方から三人の神の使者が、ワットキ
リストを眺めて居る處の繪でありました。其マリアの柔和な
顔付と云ひ、キリストの子供らしい顔といひ、神の使者の眼
の玉のさへたる容子といひ、何から何まで、其意匠の妙ある
事、又色彩の巧なる事、畫心のない者が見ても、其畫に感服し

ない者は御坐りません。此畫の價は五萬四千圓で、其畫家は
世界で一二を争ふラフェルといふ畫工で御坐りました。此
畫には、實にラフェルの非常な智慧が顯れて居ります。誰か
見てもラフェルの智慧を賞讃めたい者は御坐りませぬ。然
に此宇宙はラフェルよりも、萬倍の智慧の顯れて居る眞の
神の御畫きなされた畫で御坐ります。規則たいしく、釣合の
ある、意匠のあるものは、屹度智慧のある、御方の御造りなさ
れた物であるといふ事は、皆様御異論は御坐りませぬ。此
宇宙を見ますと、何から何まで、規則がたいし御坐りま
す。釣合が能く合ふて居ります。意匠が巧んで御坐ります。横から
見ても縦から見ても、何様しても、智慧のある御方が御造り
なされたのに違ひは御坐りませぬ。其例を掲げようとしま

するど。種が餘りあり過ぎまして。どれを擧げようか。遠方に暮れるやうですが。今其一二を御話し申しませう。夜も蒼空を眺望て見ます。下女が粗くてもして。牛の乳をこぼした様な所があるかと思へば。ダイヤモンドを彼方此方に散らかした様な處が御坐りまして。學問も仕た事もなければ。理屈も知らない人には。何だか左張り判明りませぬが。あの麻布の天文臺に上りまして。望遠鏡で蒼空を眺めて見ます。ると。イヤハヤ肉眼で見ると。大變違つたもんです。丁度田舎者が横須賀の造船場へ入つて。長ろしい器械の運轉を見て。驚く様なものです。天球は丁度廻り行燈の様に。光りを中心に置いて。他のものが其周圍を廻つて居る様に。太陽を中心にして遊星とか。惑星とか。恒星とか。澤山あつて。其星々は自

分の眞棒を周ると同時に。或星は九く。或星は斜に一分一厘も違はない様に。順序正しく規則だつて。太陽の周圍を廻ります。其順序正しい事は。日耳曼風や佛蘭西風の軍式で練り上げた兵隊も其足元にも寄付ませぬ。或星の中には私共の住んで居る地球よりも。ずつと大きな物がありまして。地球の様に山もあつたり。河もあつたりして。如何にも人でも住んで居るか。と疑はるゝ様で。ありまして。其大きな星と數萬の星は。引力の規則で。能く釣合がついて居ます。一寸でも釣合が狂ふならば。そりや大變な事です。太陽でも。月でも。星でも。何でもかでも。みんな細粉みぢんに毀れて仕舞ます。實に天賦ほど意匠の巧みな物はない様に思はれます。てすから。昔から今日まで。天の美しいひのど。其意匠の巧みなる

を見て。神の智慧を讃賞へた學者や。詩人は澤山に御坐ります。ダビデ王は「もろくの天は神の榮光を顯し蒼空は其手の工を顯す。此日言を彼日に傳へ此夜智慧を此夜に送る。語らず云はず。其聲聞へざるに。其響は全地に偏く。其言は地の極にまで及ぶ。と歌ひました。又グリンシャの哲學者ピタゴラスは。此宇宙に順序の能く調ふて居るのを見て。名高い音樂者の音樂を聞く様に能く調子が合ふて居ると云ひました。が。實に此宇宙は。日耳曼の有名な音樂者ベクウベンヤ。モザートなどの音樂よりも。万倍の智慧を顯して居る。能く調子に符ツた音樂です。イギリスの名高いチャレンスベルと云ふ醫者は。人の手の組立及び其働きを能く調へて。大ツきな書物を著はし。そして神の智慧を賞讃致しました。が。人間の躰

の中眼でも。口でも。鼻でも。耳でも。何でもみな。其仕組と作用を能く調へて見ます。と。智慧の顯れて居ない處は御坐りませぬ。能くも。斯う小ツきな所まで手が届いたもので御坐ります。肉食をしさい動物には。肉を噛む不用の齒は御坐りませぬ。野菜を食べない者には。野菜を食べる無用な齒は御坐りませぬ。水に住む鳥は。首も長ければ。足も長ふ御坐ります。空飛ぶ鳥は。骨もヒツこんで。翔も大變大ツきう御坐ります。先年私が亞米利加に居りました時分に。あの名高いケンタッキ州のマモスケードと申します。地の底にあり。大きな洞穴に往つて見た事が御坐りますが。丁度夕方の四時頃に這入りまして。朝の三四時頃に出で來ました。其洞穴の中には。東京の市街の様に。何町何丁と云つて。市區が分

れてあります。其廣さといへば十里も十五里もありまして。東から西北から南へと自由にて彼處此處に往く事が出来ます。又其中には實に奇態な處が澤山御坐ります。星の部屋と名けまして。丁度星の空を眺めて居る様な部屋があつたり。山があつたり。瀧があつたり。小つさい湖水があつたり。河があつたり。實に地の底で。近江八景でも見た様な心持が致しました。其中にも一つの奇態な事は。其河に住んで居る魚の類には目が御坐りませぬ。私は如何にも奇態に思ひまして。其河で鰻を一疋攫まへ。アルコールにつけて。態々日本へ持つて歸つて來ました。が實に奇態では御坐りませぬか。併し能く考へて見ますと。左程奇態な事でも御坐りませぬのです。眞暗黒りな處に住む魚は。目が入用な筈は御坐り

ませぬ。有ても無用物で御坐ります。若しも私共の住んで居る世界が。太陽もなく。何の光もなく。眞黒暗りて。一生涯暮さなければならぬものなれば。目はいりませぬ。目があつても無用で御坐ります。眞の神様が態々無用の物を御造りなされる理由も筈も御坐りませぬ。何を手に取て見ましても。此宇宙に在るものは。みんな非常な智慧のある御方の妙工である。と云ふ事は。大陽を見るよりも明白で。外に考へ様は御坐りませぬ。或る御方は。此宇宙に順序があつたり。釣合があつたり。意匠があるのは。何にも智慧のある御方が。前以て深く考へた事でもなく。目暗滅法界に。偶然に出來たのだと云ひます。が。實に馬鹿らしい。可笑しな説で御坐ります。今一つの譬喩を御話し申しませう。オイ小僧。かう毎日くの様には晝

さには責められ。同業の新聞屋仲間からは。此間書いた條約
改正論の事に就て駁れるし。斯う諸方から責められては。ど
ても居堪まらない。何か一番眼の玉を抜いてやる様な高尙
な議論を吐いて。輿論を引ッくり返してやりたいが。どうも
種のないには閉口だ。平野の活版所へでも往ッて。四號
活字を二千字計り買ッて來あ。そして箱の中に入れて。よくか
き廻して。臺の上に投げて列んだ儘に寫し取り。明日の新
聞紙に載せて呉れる。己れは二三日大磯の海水浴へ往ッて。
浩然の氣イヤ養生傍々種の仕入をして來るから。間違いな
く。乾度言ッ附けた通りにせよ。どの編輯係の言付に無據。小
僧はハイと。早速平野活版所に往ッて。活字を買求め。家
に歸りて。大ッさな箱に。二千字計りの活字を一ぱいづめ込

み。一生懸命にかき廻して。大部屋の臺の上に。さも勢ひよく
投げ付け。列んだ通りに寫し取り。翌日の新聞に出しました
が。夫れを讀む人見る人誰でも彼でも。皆笑はない人は御坐
りませんでした。一行の内には。字の逆様になッて居る處が
あッたり。横になッて居る處があッたり。漢字が十字も二十
字も列んで居るかと思へば。五もくめしの様に。假名と漢字
と。どたどたになッて。順序もなければ。釣合もなく。意匠もな
く。珍紛漢で何が何やら。少ともわからず。狂人が馬鹿の作と
ほか思はれません。斯ういふ工合にして。天下を引ッくり返
す様な文章が出來るとは。夢にも思はれませぬ。新聞屋先生
が一ッの社説を書くに。もなかく。骨をぬり。力一ぱい。智慧
を奮ッて。夜も寐ず。に書くのです。若し箱の中に活字を入れ。

之れを投げてシエーキスピヤの淨瑠璃や。ホーメルの詩や
エマールソンの文章が出来ものなら。何にも大學校に入り
大金を費つて。學問をするには及びませぬ。是程樂事は世
の中に御坐りませぬ。善い文章や。詩や歌が考へもなく目
暗滅法界に偶然出来るものでは御坐りませぬ。夫ゆへせう
しても充分の學問が入ります。又智慧が入用です。一ツの文
章を書くのにても。順序を付けたり。釣合をよくしたり。意匠
を廻らすには智慧がなければならぬものなれば。どうして
此宇宙が偶然に智慧もなく出来ませうか。偶然説を唱ふる
のは。實に馬鹿らしい事で論外です。又或御方は眞の神は全
智全能の神に在まして。無究無限に在ませば。限ある人間が。
神の造り遊ばした目的を測り知らふとする事は。如何にも

恐れ多き事であるし。又容易に測り知る事は。迎も出来るも
のではないと云ひますが。或る事は御尤も千萬です。成程神
様は全智全能で。無限無究に在ます御方です。又私共は智慧
にも力にも限りがあるものですから。神様の聖意のあらせ
らるゝ處を悉く知る事は。到底出来ませぬ。去りながら。人間
の及ぶ丈。此宇宙に顯はれて居る神の妙工より。其御智慧
を窺ひ知る事は。決して恐れ多き事では御坐りませぬ。又出
來難き事でも御坐りませぬ。此宇宙には。まだ人のわか
らない處は。山ほど御坐ります。又今日迄人に知れてをる事
ですら。まだもつと深き聖意があるかも知れませぬ。又わか
らぬ事があつても。人の智慧の進むにつれて。今迄判らぬ
い何の役にもたないと思つて居たものでも。夢の覺めた

様に。智恵の目が開いた様に。神の智恵を知る事が御坐りま
す。あの蚊と云ふものほど夏五月蠅ものは御坐りませぬ。誰
が見ても。何にも役にたかない様ですが。先年日耳曼の學者
が。蚊一正に大變力を費して。蚊の機能を書物に著した事が
御坐ります。其御方の説によれば。蚊と云ふものは腐れ水か
ら湧き出すもので。毒を止めるに大變必用なもので。若し
腐れ水に蚊が湧きませぬ。是が蚊の功能の一つです。又人と云ふ
ものは夏になる。立つのもいや。歩むのもいや。働くのもい
やなもの。で。ツイくぶしようがちになるもので。すが。夫れ
が爲に血の循環も悪く病氣になることが。往々御坐ります。
しかし蚊がブンくくと云つて。鼻に止まったり。耳に止まッ

たりする。と。どんなぶしようあ者でも。手を動かして蚊を追
ふたり。た。いたりします。夫が爲めに。血の循環もよくなり。
病氣が少さいと申す事です。唯蚊一正でもかやうに神様の
智恵が顯はれて居ます。まだ。私共に知れない事が。澤山
御坐ります。から。必ず知れてを。丈けて。神様の意匠は斯う
だ。目的は斯うだと。定むる事は。致しませぬ。又出来ませぬけ
れども。此宇宙に順序があり。釣合があり。意匠のあるのを見
て。えらい智恵のある御方の御造りなされたものだと。信ず
るは。如何にも道理に。適つて居ります。
第五章 良心は悪を憎み善を喜みます
人は萬物の靈だと云ひますが。何の勝れた所があつて。萬物
の靈と云ふのでしようか。物を見る事なら。人は猫の眼には

叶ひませぬ物の香を嗅いだり。香ツたりすることば。犬の鼻
に一目おかねばなりませぬ。新聞の探訪者も。兎の耳には逆
も叶ひませぬ。力競べならば。態に及びませぬ。體だ競べな
ら。チャリチの象に足元にも寄り附けませぬ。體の上から
言ふあらば人は萬物の靈處てありませぬ。萬物のけらい
と云ッても能う御座ります。人が萬物の靈と崇めらるゝの
の。耳がさどひ。眼が鋭どひ。鼻がよくきく。體が強いからで
ありませぬ。外に譯のある事。即ち人は善惡を辨へる。良心
と云ふものを持つて居るからです。犬や猫や猿や馬なんか。
幾分か智慧のある様ですけれども。是は善是の惡是はせぬ
ばならぬ。是にしていけなさと。善惡を選ぶ力の御座りま
せぬ。家に飼つてある猫が。下女が忘れて置所に遺して置た

肴を取りました處が。下女の奥様に叱られた悔しまぎれに。
猫の頭を木魚の様にコッ／＼叩き。もう二度と食べるとき
かないよと云ひ付ますければ。共猫の平氣の平左衛門で。た
かれる側から魚が出てあれば。直ぐ御馳走にあづからうと
します。猫は善惡を辨へて。善いせねばならぬと。恐いして
いならぬと。か云ふ。良心を持つて居りませぬ。ですから世に
著述者の山の様に御座ります。猫の倫學とか。犬
の道德學とか云ふ書物の。一向に御座りませぬ。あなたが兩
國橋を渡らうと成さる時に。橋の上から身を投げて。水の中
であッぶく。と死かゝつて居る人を御覽なされたならば。
屹度其人を救ふ事。善い事である。早く助けよとの命令で
もあるやうに。直ぐ着物を脱ぎ飛びこんで。其人を助くるの

い。あなたに、あなたの中に、耳が物を聞いたり、目が物を見
る様に、善悪を辨へる。本心があるからです。いくら犬が人の
身投を見て居ても、馬がどんなに眺めて居ても、之を助けや
うと云ふ思ひの起らぬのは、良心と云ふ。道徳の性がない
からです。人が酒に耽り、女に狂って、月給も費ひ果し、親類
友は言ふに及ばず、他人に迄も金を借り盡し、もはや借り處
も盡き仕方がなくなつても、酒は止められず、女買ひも思ひ
切られず、遂に石川五右衛門の二の舞と出掛け、盜賊根性を
惹起し、暗夜に人の家に忍び入り、マツマツと首尾能く金は手
に入りました。人が人を殺したり、人の物を奪つたりするのを。
良心では決して善しとは思ひませぬ。始終良心は蜂の刺す
様に、其人を刺して居ます。其證據には、悪人が眞暗黒りな成

を。たつた一人て歩いて居ります。時に、何か後ろから音で
もします。すると、お巡りさんでも己を捕へに來たのではない
かど。驚して逃げ出します。聖書の箴言と云ふ書物の中に「悪
き者は追ふ者おきけれども、良心が逃げるとありませぬ。ほんとうに
左様です。悪い者でも良心がわかりますから。悪い事をすれば
苦るしいです。しなやう心は責められます。此様に良心と云
ふものは、善を嘉みし、惡を憎みます。夫故に此良心を御造り
なされた御方は、必ず善を嘉みし、惡を憎み玉ふ神であられ
ばなりませぬ。人が生れながらにして、持て來ました良心が
悪い事をして、何とも氣に注めず、責められても平氣で悪
い事計りを職分の様にするもので御坐りましたなれば、其
良心を御造りあされた御方は、悪い御方でなければならぬ

答てしよう。しかし若し其良心が悪い事をするを嫌ひ。ちよ
ツとでも悪い事をすれば。しじゆう責めらるゝ事が御座り
ます。又正し御方てなければなりませぬ。萬有に一定の規
則がありまして。上は天。下は地。其中にある物。何から何まで。
皆それの規則に支配されて居るものです。丁度其様に。
良心にも一定の規則が御座りまして。夫れを道徳。又人倫
の法と申します。人の北南東西を問はず。熱き地。寒き地の別
なく。男女の區別もなく。人間の名を持って居る者。みんな此
規則の中に縛られて居ます。かやうに規則がある以上。必
ず其規則を造つた者があければなりませぬ。一國の法を作
るにも。作り者がなければ出来様答は御座りませぬ。美吉利

ての上院下院と云つて。國の律法を作る處が御座ります。日
本でも。元老院と云ふものが御座りまして。其處で律法を作
ります。法律を作る者がなければ。律法の出来る筈ない。と
云ふ事。皆様御異論のありません。然れば此人間の世界
に。善いせよ。悪いする。善い。悪い。善を爲せば。善を爲せば。
ば。樂みがあり。悪を爲せば。責められ。善を爲せば。責めらるゝ。
一定の法則があり。世界一般。此律法の下に居りますもの
なれば。屹度此道徳の法を御立てなされた。御方がなければ
なりません。其御方の善悪の差別を知り。又善悪の成り果て
をも。能く御存の御方てなければなりませぬ。良心の中に。
善い。爲よ。悪い。する。善い。すべき。善。悪。はして。ならぬ。どの
命令が御座ります。其命令の出るから。人よりも。ツと上

の御方がなければ命令する事の出来ません。もし人と同等なものなれば命令しても人の夫れに従ふ等も御座りませぬ。其例を御話し申せば、四時時分と覺し頃、或下宿屋の二階で書生が二三人圍座してゐましたが、一人がいふに、「オイ奇体でいないか。今日は晝五六杯引ッ掛けたのに、いつもより大變腹がへつて来た。一錢宛出し合して、例の豆か焼芋、イヤ金米糖かカステラでもどらだ。ひとつ夕飯前に腹を膨らして、下宿屋でも喜ばしてやらうじやないか。オ、能辨先生、貴公買ッて来な。」ナニ失敬極まる。買ッて来い。己れや君の食客や、厄介者ではあるまいし。下宿屋の拂は、二三ヶ月溜りて居るけれども、君に拂つて貰いやしないし。所得税は少く納め兼ねるが同等の権理は己れでも持つて居る。君から焼芋買

いに往けと命ぜらるゝ等はない。君が頭でも下げても、願ひ升と云へば、己れも往かんものでもないが、何んだか主人が小僧にでも云ひ付る機に、なんだ、己ヤ買ひに行かない。同等の権理を持つて居る者が、其同等の者から命令を下さるゝ等はない。又さういふ権威は君にいつて居りやしない。能辨先生は「能辨たら、ト、やり込めました。此能辨先生の道理は中々筋途が能く立ッて居ます。同等の者が同等の者に命令する権理は決して御座りませぬ。家來が君に使へ。番頭が主人に頭を下げ、小僧が旦那にハイ、と云ふのは、君の家來を支配し理むるの權があるからです。主人は番頭に言ひ付る權理があるから、人間の上には權威のある御方が多く、命令す

る御方がなければ。良心に善はせよ悪は爲るなど命ぜられ
ても。能辨先生の述べらるゝ通り。同等な者は同等な者に
命令する事は出来ませぬが。人が良心の命令に従つて。善を
好み。惡を憎むの關係は。丁度國王に於ける民です。主人に
於ける番頭です。旦那に於ける小僧です。私輩の上には權威
のある御方が命じなさるゝと云ふ事を知て居るから。良心
は立處に其命に従ふのです。實に良心の性質と其働きを關
べて見ますると。神の在ります事。又其神の性質は。如何にも義
しくして聖く在ります事を知る事が出来ませぬ。あの日耳曼の
名高い哲學者カント先生も人の心にある道德の法則を能
く研究して見ると。神を信するに充分な證據がある。と申さ
れました。又蘇格蘭の名高い心理學者ハミルトン先生も。人

の徳性に基いて。神の存在を證據立つる事は。最も備かな最
も力ある證據だ。と申されました。良心の上から。神の存在を
信じ。又其神は聖き義き神に在りますと云ふ事を信するの
は。道理に適つて居ります。

第六章 結末

第二章に。人は生來神を慕ひ信するの念を持って來たもので
あると云ふ事を述べ。又第三章には。宇宙は創造られたもの
です。から。其大原因があり。それは眞の神である。と云ふ事を
語りました。第四章には。其眞の神は大層智慧のある御方で
あると云ふ事を説き。又第五章には。其眞の神は義しく且聖
き御方にまします事を御話し申しました。が。前の章を能く
御讀みさされたなれば。私共の眞の神を信する理由は。一

通り御譯りなされたと存じます。基督信者が神の在ますこと
を信する理由は前の章に述べました道理の外も。またま
だ澤山の道理が御坐ります。基督信者が神の書物として信
じます。舊約書新約書の中には神の一なる事及び御性質
を明白に記して御坐ります。又基督の人となりや。基督のな
されたる奇跡や。預言や。其教を能く調べて見ますと。基督
自から神に在まして。神は如何なるものであるかと云ふ事
を明白に信する事が出来ませぬ。また聖書も信せず
基督も信じない御方には。さう云ふ證據を擧げるのは。無用
と思ひます。此處には述べません。或る御方は。眞の神の
在ますことには。そんな證據があるのに世間では。其眞
實の神を信せぬのは。どういふ譯であらう」と訝しうに御

問なさりませう。併眞實の神の在ます事を知るのと。其神を
信するのとは。大なる違ひが御坐ります。悪魔でも神の在
ます事を知て居ります。けれども其神を信する事は。致しま
せぬ。世には眞理だからとて。吃度皆が皆信すると云ふ理由
は御坐りませぬ。眞理と見ても信せぬ御方は。山ほど御坐
ります。眞實の神の在ます證據は澤山あつて。其證據は眞理
だと認むる人は多勢御坐ります。が。夫を信じない人も亦
多勢御坐ります。其神を信する事の出来ない譯を御話し
申せば。神は聖く且義しく在します。故に。其神を信じ其神
を拜するやうになれば。今まで酒に耽たり。女に迷ふて居た
り。商賣をするに虚言八百を云つて。品物を賣買して來た。そ
の從來りの世渡りを捨て。酒も罷め。女をもあきらめ。虚言

も言はず。神様の様に義しくならなければありませぬから。
どうも罪に沈んでをる者が。夫から上る事は容易く出来に
くひわけて。罪の爲に聖き神を信する事が出来ませぬ。是が
第一の理由です。世には人ほぞ弱い者は御坐りませぬが。又
人程傲慢な者は御坐りませぬ。少くも書物を讀むと。直ぐ
大學者を氣取ります。少くも智慧がある。ちきに鼻にか
けます。少くも金があれば。すぐ大盡氣取になつて。己れを
神の様に敬ひ。人から神の様に敬まはるゝを好み。眞實の神
を棚に上げて仕舞ます。傲慢ほど憎いものは御坐りませぬ。
其傲慢が眞實の神を信する事の出来ぬ第二の理由です。
又疑ひ深ひ人程取扱ひにくひ者は御坐りませぬが。眞實の
神様の有る證據を述べます。如何にも感心して。其理に

服する様ですが。信する段になると。なか／＼しぶ／＼とくて。
容易には信じませぬ。自分の鼻でも。口でも。目でも。耳でも。信
かに顔にゐると云ふ事は。知つて居ますが。扱眞實にあると
云ふ事は。信じませぬ。自分の生きて居る事です。信じませ
ぬ。此疑ひ深ひ事が。神を信する事の出来ない第三の理由で。御
坐りませぬ。基督の御弟子。パウロは。血肉は神の國を見る事が
出来なす。と申しました。が。ほんとうにさうです。さうしても
上からの力がなければ。神を信する事は。むづかしう。御坐り
ます。皆さんもよく理のある處を見て。神を信じようと思ひ
あされませぬならば。どうか其妨げになる汚れた心や。傲慢
な心や。疑ひ深ひ心を取つて。神をお信じなさす。

版權登錄

明治二十二年九月九日印刷
同年同月十一日出版

著作
兼發行者

田村直臣

東京麹町區有樂町二丁目
三番地

印刷者

島連太郎

東京京橋區西紺屋町
廿六番地寄留

印刷所

秀英舍

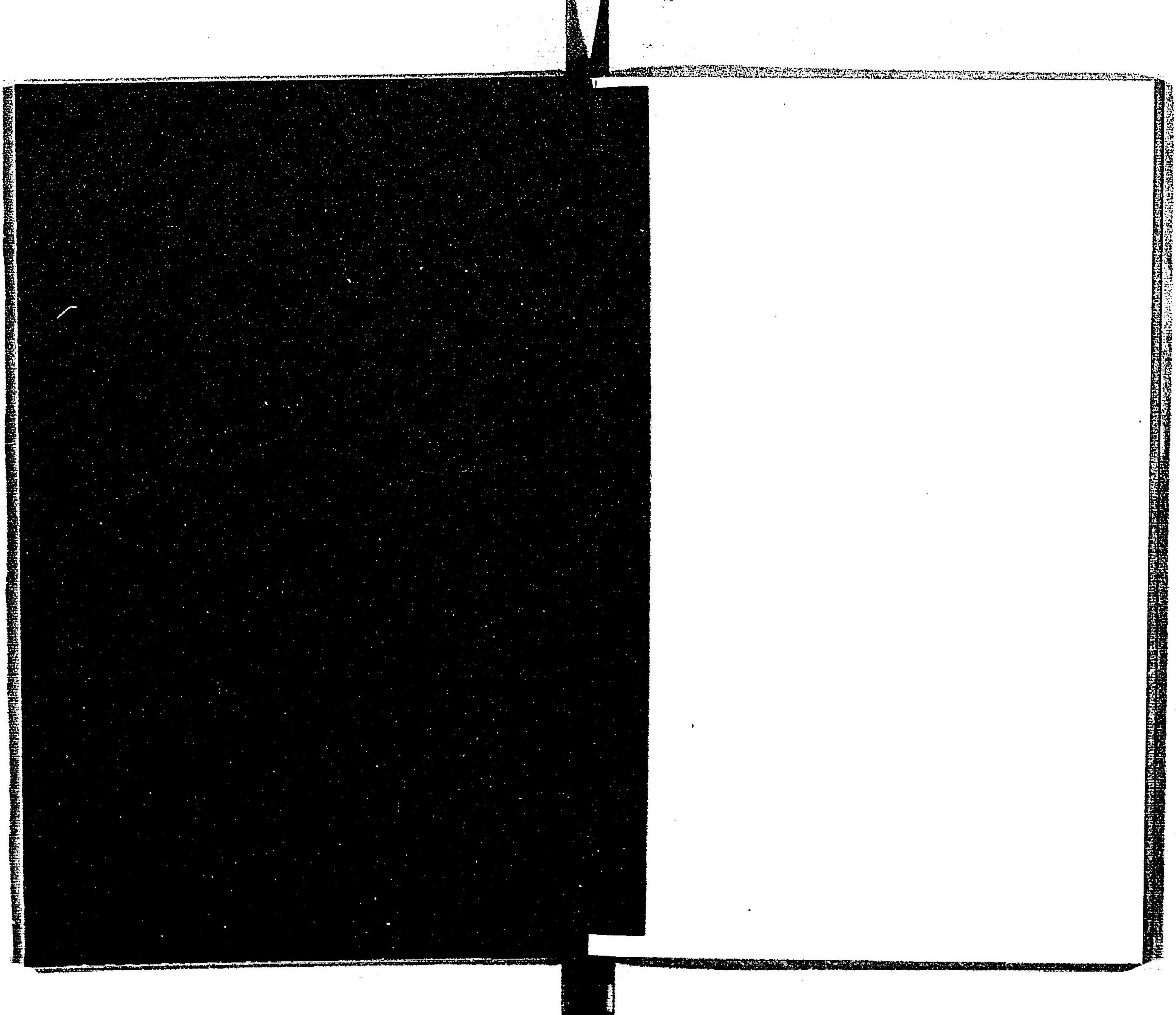
東京京橋區西紺屋町
廿六七番地

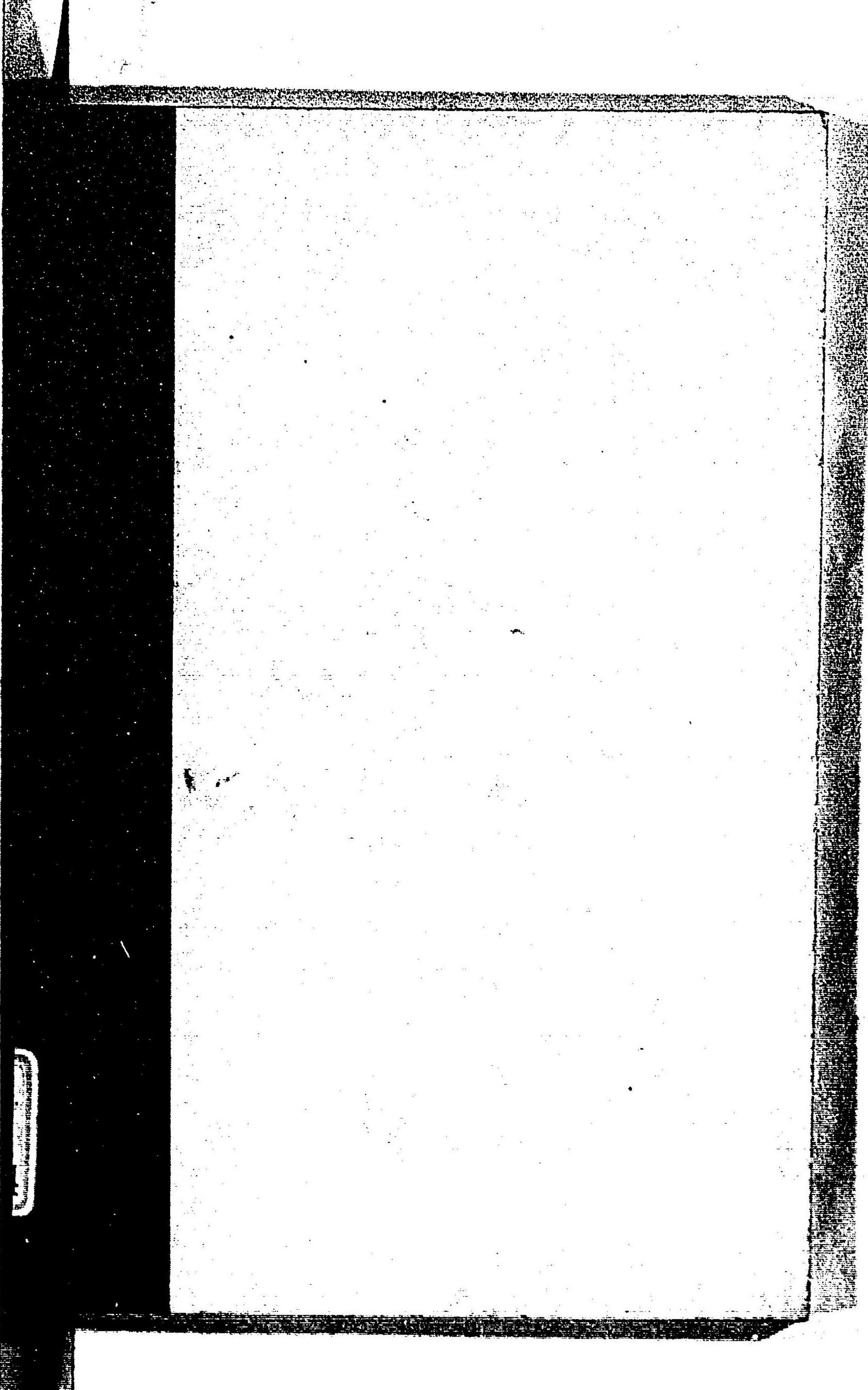
賣捌所

十字屋

銀座二丁目二番地
錦町二丁目一番地

G-81





真神を信ずる理由

国立国会図書館

020325-000-6

特49-804

真神を信ずる理由

田村 直臣 (有楽堂主人) / 著

M22

ABI-0131



8

